

目次

まえがき	i
1 はじめに	1
1.1 T _E X とは	1
1.2 L ^A T _E X を使った論文例	4
1.2.1 J ^L A _T E _X を使った和文の論文例	4
1.2.2 L ^A T _E X を使った英文の論文例	11
2 L^AT_EX とは	17
2.1 文書のスタイル	17
2.2 入力テキストファイルの記述	18
2.3 文字のスタイルとサイズ	19
2.4 特殊文字記号	20
2.5 環境の設定	20
2.6 数式	21
2.7 表や図形	23
2.8 その他の L ^A T _E X の機能	26
3 L^AT_EX の使い方	27
3.1 文書の構成	27
3.1.1 入力ファイル	27
3.1.2 文書スタイル	28
3.1.3 標題	33

3.1.4	章の構成	35
3.1.5	目次	36
3.2	基本コマンドと機能	37
3.2.1	ダッシュ、クォーテーション、ハイフネーション	37
3.2.2	特殊記号	39
3.2.3	アクセント記号	40
3.2.4	空白	41
3.2.5	脚注	45
4	LaTeX の環境と文字フォント	47
4.1	センタリングなど	47
4.1.1	センタリング	48
4.1.2	左寄せ	48
4.1.3	右寄せ	49
4.2	箇条書き	50
4.2.1	Itemize 環境	50
4.2.2	Enumerate 環境	51
4.2.3	Description 環境	54
4.2.4	ユーザ独自の箇条書き環境の定義	55
4.3	引用文	57
4.3.1	Quote 環境	57
4.3.2	Quotation 環境	58
4.4	詩	60
4.5	テキストをそのまま印刷する環境	62
4.5.1	Verbatim 環境	62
4.5.2	Verb コマンド	62
4.6	Minipage 環境	63
4.7	文字	66
4.7.1	フォントの切換え	66
4.7.2	文字の大きさ	67
4.8	応用例	71

5	数式	73
5.1	数式モード	73
5.1.1	テキスト用の数式モード	74
5.1.2	ディスプレイ用の数式モード	74
5.2	数式用フォント	77
5.3	基本的な数式	78
5.3.1	添字	78
5.3.2	分数と2項係数	79
5.3.3	ギリシャ文字	82
5.3.4	ベクトル	83
5.4	総和と積分記号	85
5.5	変化する記号	88
5.5.1	上線, 下線, 矢印	89
5.5.2	根号	89
5.5.3	括弧	90
5.5.4	数式の上下の括弧記号	94
5.6	関数	96
5.6.1	関数記号	96
5.6.2	文字で表す関数	97
5.7	空白の制御	99
5.8	複合記号	100
5.9	ドット記号	102
5.10	配列と行列	103
5.10.1	配列の基本形	103
5.10.2	行列と行列式	105
5.10.3	数式の場合分け	110
5.11	連分数	111
5.11.1	連分数の基本形	111
5.11.2	連分数の省略形	114
5.12	数式の縦揃え	117
5.13	数式番号	120
5.14	定義, 定理	122

5.15	定理の証明の終りを示す記号	123
5.16	可換な図式	124
5.17	化学式	127
6	表の作成	133
6.1	基本的な作表の考え方	133
6.2	Tabbing 環境	134
6.3	Tabular 環境	140
6.4	表のレイアウトと管理	146
6.5	表の作成の応用	149
6.5.1	プログラムリスト	149
6.5.2	お料理のレシピ	153
6.5.3	その他の応用例	155
7	図形の描画	161
7.1	Picture 環境	161
7.2	図形コマンド	164
7.2.1	直線と矢印付きの直線	164
7.2.2	円	166
7.2.3	ボックス	167
7.2.4	長円形	170
7.3	図形のレイアウトと管理	171
8	文書のレイアウト	175
8.1	文書の構成	175
8.2	プレアンブル	176
8.2.1	ページの体裁	177
8.2.2	2 段組	180
8.2.3	文書の途中からの 2 段組への変更	182
8.2.4	ページのヘッダ	183
8.3	標題, 章, 節	184
8.4	前書き	186
8.5	相互参照	187

8.6	付録コマンド	189
8.7	用語一覧の作成	189
8.8	用語索引の生成	190
8.9	入力ファイルの分割	190
8.10	L ^A T _E X の補助ファイル	192
8.11	英文手紙	193
9	参考文献の作成	197
9.1	文献データの, 本文への書込み	198
9.2	文献データの, 別ファイルでの記述	200
9.2.1	エントリー	202
9.2.2	キーワード	204
9.2.3	雑誌名の自動参照	206
9.2.4	文献の参照	207
9.2.5	B ^I B _T E _X の使用	207
10	コマンドいろいろ	213
10.1	マクロの定義	213
10.2	新しい環境を定義するコマンド	214
10.3	カウンタ	215
10.4	脚注マークの変更	218
10.5	ボックスコマンド	219
10.5.1	枠無しボックス	219
10.5.2	枠付きのボックス	220
10.5.3	Parbox	220
10.5.4	Rule ボックス	222
10.5.5	ボックスの上下移動	223
1	pecial コマンド	223
	参考文献	225
A	数学記号と空白	229
A.1	ギリシャ文字	229

A.1.1	小文字	229
A.1.2	大文字	229
A.2	数式モードのアクセント	230
A.3	括弧	230
A.4	関数名	230
A.5	演算記号	231
A.5.1	2項演算子	231
A.5.2	関係演算子	232
A.5.3	その他の記号	232
A.5.4	矢印	233
A.6	大型の特殊記号	233
A.7	空白	234
A.7.1	横方向の空白コマンド	234
A.7.2	縦方向の空白コマンド	234
B	L^AT_EX のエラーメッセージ	235
B.1	エラーメッセージの例	235
B.2	よく犯す L ^A T _E X エラー	236
B.3	L ^A T _E X のエラーメッセージ	237
C	L^AM^S-T_EX	239
C.1	L ^A M ^S -T _E X の特徴	239
C.2	L ^A M ^S -T _E X の入手方法	240
索引		241